

＜本部便り＞ I. 60周年記念演奏会実行委員会演奏部門からのお知らせ

皆さん、創立60周年記念演奏会への参加申し込みはお済ですか？。まだの方は早急に下記の各支部の実行委員または金井までお申し込み下さい。

現時点での演奏参加予定者は東日本支部が約10名、西日本支部が約15名、甲信越支部が約20名で合計約45名となっております。50周年記念演奏会の時はちょうど50名でしたので、それ以上の方にご参加頂きたいと願っております。

今後の予定としましては、来年の第4回定期総会の際に1回目の合同練習を行いませんので、それまでは支部練習または個人練習をお願い致します。

尚、ホームページに演奏会に関する情報(曲目、楽譜、音源、練習方法等)がありますので、ご覧下さい。また、ご不明な点をご遠慮なく金井または各支部の実行委員にお問い合わせ下さい。

[実行委員会演奏部門]

東日本支部：福永正敏([spmzasafuku@k5.dion.ne.jp](mailto:spmasafuku@k5.dion.ne.jp))

高野洋之(h-kouno@m02.itscom.net)

西日本支部：大原秀樹(ooharahideki.h@hb.tp1.jp)

力石恒雄(chikara3363@yahoo.co.jp)

甲信越支部：金井正広(kanaifam@janis.or.jp)

市ノ瀬茂(s-ichinose4.11@wave.plala.or.jp)

実行委員会演奏部門 金井正広 (S50年工学部卒)

＜本部便り＞ II. 現役合宿激励訪問記



現役生の志賀高原合宿練習風景



同窓会激励訪問者、左から日野甲信越支部長、山田先輩、羽田会長、斉藤副会長

今年で4回目の激励訪問となります。毎年先輩の山田さんにお世話になり志賀高原に向かいました。途中で”差し入れ”も購入して昼食時訪問です。現役の部長さんも4代目で 菅沼、佐藤、佐々木、山本さんと受け継がれ、迎えてくれたのは何時も訪問時に ”我々に元気をくれる立派な若者たち”でした。今回は日野甲信越支部長も参加され、羽田会長、山田先輩の4名の訪問でした。訪問日は8月27日(火)で、合宿開始の頃でしたので練習は程々でしたが、”11月の定演に向け頑張るように”との声をかけ、合宿所を後にしました。我々は、長野駅前”1年ぶりの再会の飲み会”を終え帰路に着きました。天気にも恵まれ、快適な1日でした。

副会長・東日本支部長 齊藤 学 (S45年工学部卒)

＜本部便り＞ Ⅲ. 信州大学マンドリンクラブ 部長からメッセージ



現役生の夏合宿での練習風景

今年度、部長を務めさせて頂いております
繊維学部3年山本栞大と申します。

今年度の第57回の定期演奏会を行えますのも、諸先輩方のご支援あってのことであると思っております。年々と当団体の規模が縮小してきてしまっている中で、様々な苦悩もありましたが、何とか曲として仕上げてきました。また今年は長野市ホクト文化ホールと塩尻レザンホールということで例年とは異なり塩尻市での公演となっております。

お手数をおかけしてしましますが、ご都合がつく方がいらっしゃいましたら、是非お

越し頂けると幸いです。団員一同、皆さんの御来場を心よりお待ちしております。長くなりましたが、今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(第57回定演のチラシを文末に添付しましたのでご覧ください。)

2019/10/12 信州大学マンドリンクラブ 山本栞大

＜支部便り＞ 甲信越支部より近況報告

9月も中旬、長野では松茸の初競りのニュースがあったり、朝夕の風もさわやかで心地よく、いよいよ秋めいてきました。今年は「SUMC 同窓会本部の定期総会が無い年に実施」ということになっている甲信越支部の総会を、6月2日、松本市あがたの森で実施しました。内容的には、6月22日の信大工学部同窓会中信支部の総会で出前演奏を依頼されていたのでその練習を行い、そのあと例年通り昨年度の活動報告・会計報告、支部の役員体制、今後の活動等についての話し合いを行いました。当支部は今年も例年通り、ほぼ毎月1回のペースで上田市西部公民館にて練習会を実施しながら、時々頼まれては出前演奏を行っています。

直近では9月15日、甲信越支部幹事長・金井正広さんが自治会長を務める上田市長島自治会の敬老会で演奏をしました。会場はホテル上田西洋旅籠館という所で、そこは敬老会というよりは、結婚式の披露宴をやってもおかしくないくらい広くて立派な会場で、しかも我々が演奏するスペースの確保にも大変なくらい満席な会場で、弾いている我々もとても楽しい時間を過ごすことができました。



長島敬老会にて演奏（令和元年9月15日）

選曲もお年寄りが楽しめる曲を選んだということもありますが、特に「みかんの花咲く丘、高校三年生、津軽海峡冬景色」では大合唱となり、最後におまけとして、自治会からの希望で「故郷」を演奏し、これに合わせて会場の皆さんが歌い敬老会は終了となりました。

後日、金井自治会長から「とても好評で、みかんの花咲く丘では涙ぐんで歌っているご老人もいた」ということで、演奏者（15名）に感謝のメールを戴きました。

令和元年も、残すところ3か月余となりました。甲信越支部では今年も上山田温泉で、宿泊・忘年会を早々と計画しました。日程は12月11日（水）、一泊二食・バイキング方式で食い放題、飲み放題。お代はMAX7,800円。他支部の方も参加希望者は日野、金井まで申し出下さい。甲信越支部長 日野 博明（S47年繊維学部卒）

<支部便り> 東日本支部より 羽田さん誕生会

4月7日（日）に東京・銀座飛雁閣において、当クラブ会長羽田克己さんの”誕生日会及び会社創立50周年の前夜祭”が開催されました。お祝いに駆け付けた佐々木和也さんが、さくら幻想曲を独奏、ベニスの謝肉祭を水上明さんと共演、3曲目はこの二人の伴奏で、羽田会長がオー・ソレ・ミヨを気持ちよく唄いあげて、満員（60名）の会場から喝さいを受けました。マンドリンを初めて聴く人も多く、カンツォーネとマンドリンは合うねという声が多かったです。同時に信大マンドリンクラブが、間もなく60周年を迎える歴史を会長がPRしました。



羽田会長の“オーソレミヨ”熱唱



佐々木さんの“さくら幻想曲”



佐々木さんと水上さんの“ベニスの謝肉祭”

副会長・東日本支部長 齊藤 学（S45年工学部卒）

＜支部便り＞ 西日本支部より近況報告

1. 豊郷病院での七夕コンサート

- 西日本支部の今年のボランティアでの演奏行事は、
- 7月6日豊郷病院での七夕コンサート（去年から連続参加）
- 9月14日彦根市デイサービスセンターきららの慰問演奏（今年初めて）
- 9月16日名古屋市光城学区の敬老会アトラクション参加（毎年恒例行事として参加）
- 10月9日名古屋市港区フレンドハウスの慰問演奏（今年初めて予定）

出場2回目ともなると、合唱できる歌を何日も前から練習してくださったり、当日の会場を盛り上げてくれました。去年はポールモーリアメロディーだったとか覚えてくれていたり、もうとっくに忘れていた曲目までどこが認知症の患者さんだかわからなく、かえって私たちのほうがすっかり忘れてしまって年の差を全く感じませんでした。生の演奏を聴くのが何よりも喜んでくれて、控室には“寅さん”“おしん”のドラマのDVDがたくさん置いてありました。



豊郷病院での七夕コンサート風景①

西日本地区のメンバーの悩みは、住所がばらばらで練習場所をどこにするか、その交通費や会場費をいくらで抑えるかなど、でも全員が揃うのがクラブの目的だけど、と思い不便でも各地で交互に練習していました。名古屋～姫路の地理的に中間地点である米原に練習場を借りてみてはどうかという提案があり、米原は雪深く、寂しいところに練習場などないものだと決めつけていました。



豊郷病院でのセタコンサート風景②

ところが長浜、米原の雪多き季節は1月～2月だけで、信州で鍛え続けたみんなは十分耐えうると判断し、米原駅の近くの公民館で練習することにしました。これも彦根に住んでいるカ石さんご夫婦のご尽力と我々感謝しています。

最後にうれしいニュースを報告します。支部の中で一番活動メンバーの高齢化が進んでいる西日本支部に、若手3名が新しく参加してくれることになりました。長浜にお住まいの西河さとみさん（S61年医短卒、長浜マンドリンクラブ所属）と名古屋にお住まいの早川勉さん（S52年人文卒）と彦根にお住まいのカ石泉さん（S53年医短卒）の三名です。「我々団塊の世代」のものからすると遥か程遠くに卒業された三人にこれからの西日本支部は確実にバトンタッチできます。我々「後期・・・」はコキコキ鳴らせながら退場していきましょう。おしまい。

西日本支部 谷口博光(S46年工学部卒)

2. 各パートにマイクを付けた演奏の試み



名古屋市光城学区 敬老会でのコンサート①

敬老会のアトラクションは、西日本支部で演奏活動をはじめてから毎年続けていました。今年はディービスセンター「きらら」の慰問演奏の直後だったので、名古屋地区中心の6名のメンバーによる演奏でした。

毎年暑い時期に冷房のない体育館のため窓を全開にして、ミスト噴出機能の付いた大型送

風機の中での演奏は、繊細なマンドリン合奏には過酷な環境です。一生懸命練習した成果を十分に披露できなくて悔しい思いをしていました。

そこで、今年は6名の奏者全員にマイクをつけて、ミキシングした合奏をスピーカーから伝える方法を試してみました。音響機器も進歩しており、事前の準備で音量調整をしっかりとすればマンドリン合奏の繊細な音色も十分伝わることを確認しました。機械は正直に音を拾いますので、演奏者のプレッシャーは大変なものがありました。



名古屋市光城学区 敬老会でのコンサート②

3. 市川さんからの便り

この原稿をまとめていたら、脳梗塞の後遺症と闘っておられる市川正明さん（S46年工学部卒）からうれしいメールが西日本支部に届きました。本人の了解をいただきましたのでその全文を紹介させていただきます。

今晚は、大変ご無沙汰しています。皆さんはお元気でいつもご活躍されているご様子、送信して頂いているメールを拝見して、自分も早く回復して、もう一度復帰出来たら良いのにな、と思っています。

3回/週 リハビリに取り組んでいますが、指の動きの回復はなかなか思う様には行きません。脳梗塞発生の原因となった不整脈は、脳梗塞発生前からもともと自覚症状は無かったのですが、心電図検査をすると、不整脈が出ているので、完治させるには、不整脈を発生させている不要な電気信号の発生を止めない限り治らないということで、今年の5月に阪大病院に入院してカテーテルアブレーションという治療を受けました。

この治療を受けても、悪くすれば1回だけでは、治らない可能性もあると言われましたが、治療後の心電図検査の結果では、現在まで不整脈は出ていないということで、治療はうまくいったものと判断されます。歩くことも、大分足取りはしっかりとしてきましたが、未だ一人で長距離を電車に乗ったりして移動するのには不安があります。

それと先般運転免許試験場に行き臨時の運転適性検査を受け、合格判定出ました。これで、車の運転は可能となりました。

もう一つ嬉しいニュースを先日耳にしました。再生細胞の治療としてはIPS細胞を使った治療方法が有名ですが、それ以外に Muse 細胞を使った脳梗塞患者への治験が、東北大学附属病院で開始されたというものです、事前のカニクイザルを使った評価試験では脳出血を起こしたサルにこの Muse 細胞を投与すると餌をとるという機能が改善したということです。この為に人間に対する確認の為に治験が今月初めから開始されたものです。早ければ来年早々にも治験結果を出して、一般的な治療方法として活用したいということです。この Muse 細胞の治療方法は体への負担が少なく、点滴と同じ様に細胞を直接血管に注入するだけで、Muse 細胞が自分で破壊された細胞の所まで行き破壊された細胞を修復する様です。再生治療というと細胞の癌化が一般的には懸念されますが、この Muse 細胞では癌化する心配はないとのこと。

先日は伊東さんからお電話頂き久し振りにお話させていただきました。その時、伊東さんから以前に比べると話し方や声がしっかりとってきていると言われ嬉しく思いました。又お目にかかれる日を心待ちにしています。 9/29日 市川

西日本支部長 伊東義敏(S45年工学部卒)